

2008年5月～2008年7月の近畿地域におけるテレメータによる地下水位およびボアホール型歪計による地殻歪（水平3成分）の観測結果を報告する。観測点は20点（観測井は25井戸）である（第1図）。同期間中に第1図で示す範囲内で、M4以上で深さ30kmより浅い地震は、無かった。M4以上で深さ30kmより深い地震は、無かった。

第2～6図に、2008年5月～2008年7月における地下水位の1時間値の生データと（場所によってはその下に）補正値を示してある。また、第7～11図には同期間におけるボアホール型歪計が併設してある観測点について地下水位とともに歪3成分の観測値（生データ）を示してある。歪の図において「N120」などと示してあるのは、歪の方向が北から120度東方向に回転していることを示す。水位補正值(corrected)は潮汐解析プログラムBAYTAP-Gによって、気圧・潮汐・不規則ノイズの影響を取り除いた後のトレンドである。なお、tkz・obk2・ysk・yst1・yst2・yst3およびbndは地上より上に水位が来るので、井戸口を密閉して水圧を測定し、それを水位に換算している。hks・kwnではケーシングを二重にして、外管で浅い方の地下水位（hks-o, kwn-o）を、内管で深い方の地下水位（hks-i, kwn-i）をそれぞれ測定し、別々の観測井にカウントしている。

2008年5月12日に発生した中国四川省の地震（M7.9）に伴い、ohrの歪およびhnoの歪にステップ状の変化が見られる（第10図）。

hrbの2008年3月以降の地下水位の短期的な上下変化は、口元から雨が流れ込んだためと思われる（第2図）。hrbの2008年7月前半の欠測は収録機器が動作停止したため（第2図）。sedの2008年7月前半の欠測は機器の故障のため（第2図）。ingの2008年7月末以降の欠測は収録機器が動作停止したため（第3, 8図）。knmの2007年11月以降の地下水位の短期的な上下変化は、口元から雨が流れ込むようになったため（第4図）。knmの2008年6月後半の欠測は収録機器が動作停止したため。2008年7月以降にも同様の現象が発生し、欠測中である（第4図）。hks-i, hks-oの2008年6月の欠測は機器の故障のため（第5図）。kwn-iでは2008年6月17日に水位計を交換した（第5図）。obk2の2008年5月以降の地下水位低下は周囲の揚水によるものと思われる（第6図）。ohrの2008年7月末の歪の欠測は、機器の異常動作のため（第10図）。htsの2008年5月の地下水位低下は周囲の揚水によるものと思われる（第11図）。

これらのデータ（グラフ等）は、<http://riodb02.ibase.aist.go.jp/gxwell/GSJ/index.shtml>で公開されている。（北川有一・小泉尚嗣・高橋誠・佐藤努・松本則夫・大谷竜・板場智史・桑原保人・佐藤隆司・木口努・長郁夫）

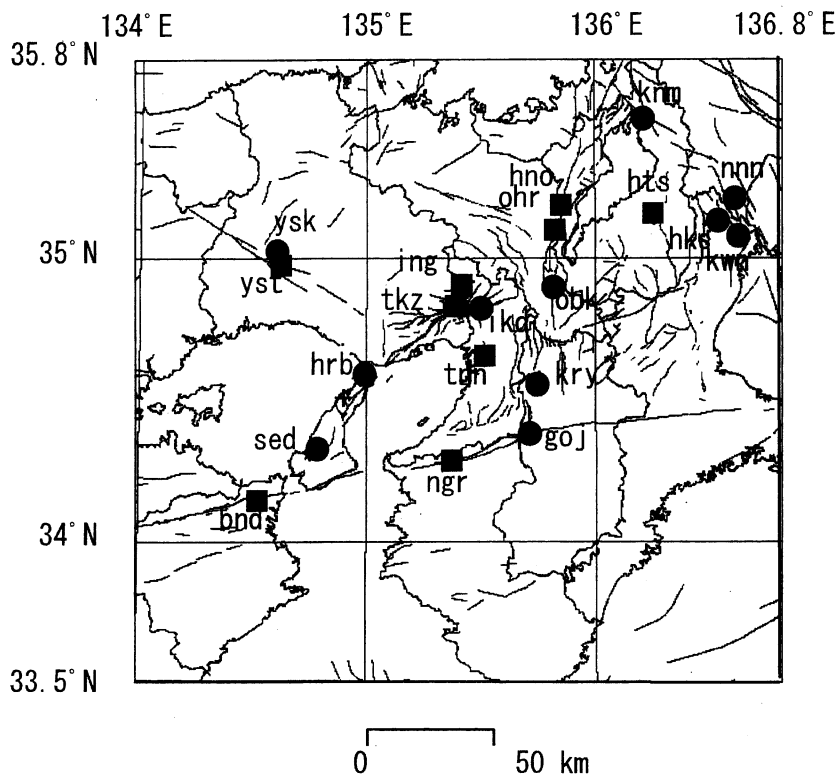


Fig. 1 観測点（●・■）と活断層分布。●は地下水のみの観測点で、■はボアホール型歪計を併設している観測点。

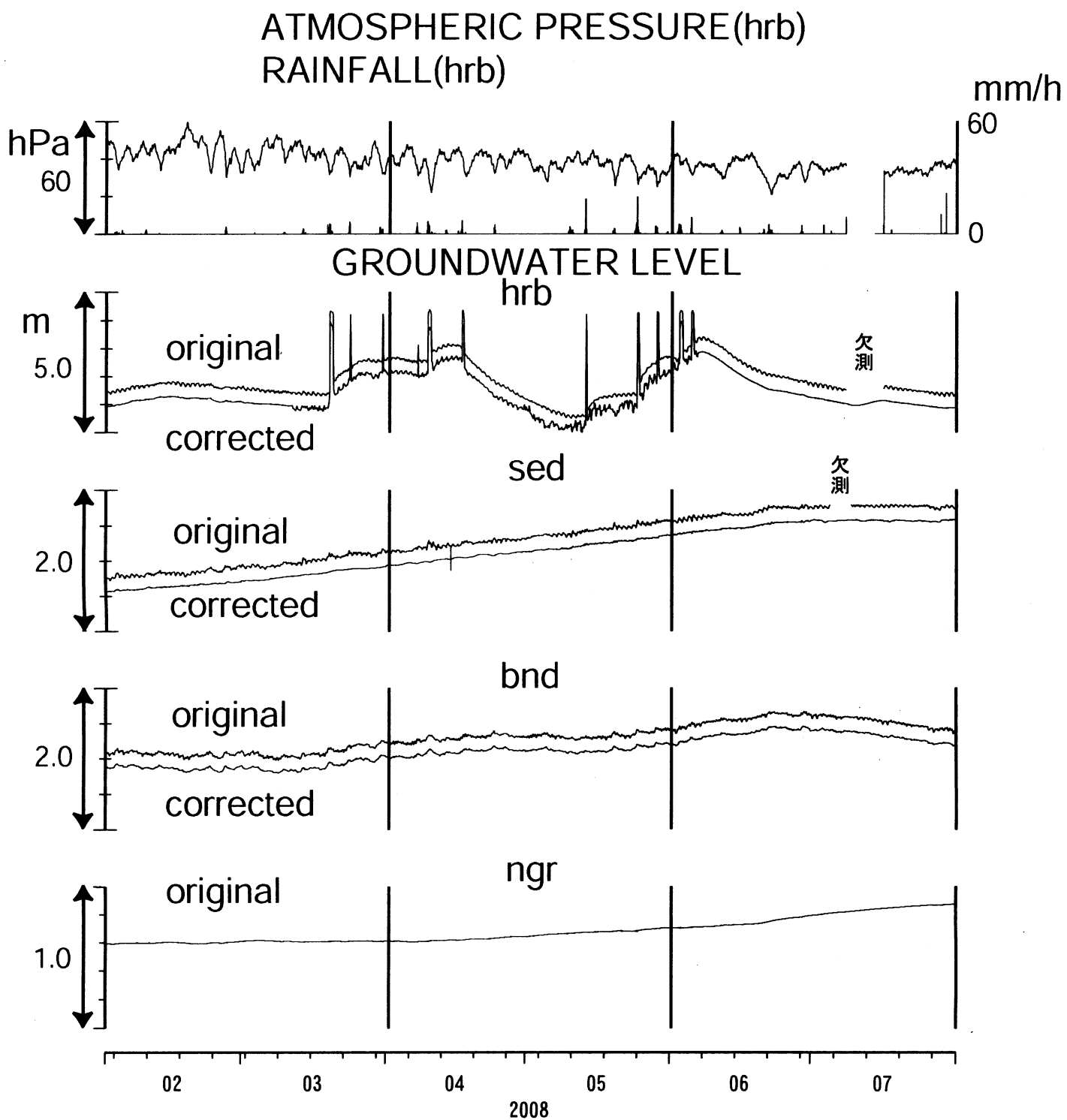


Fig.2

ATMOSPHERIC PRESSURE(tkz)
RAINFALL(tkz)

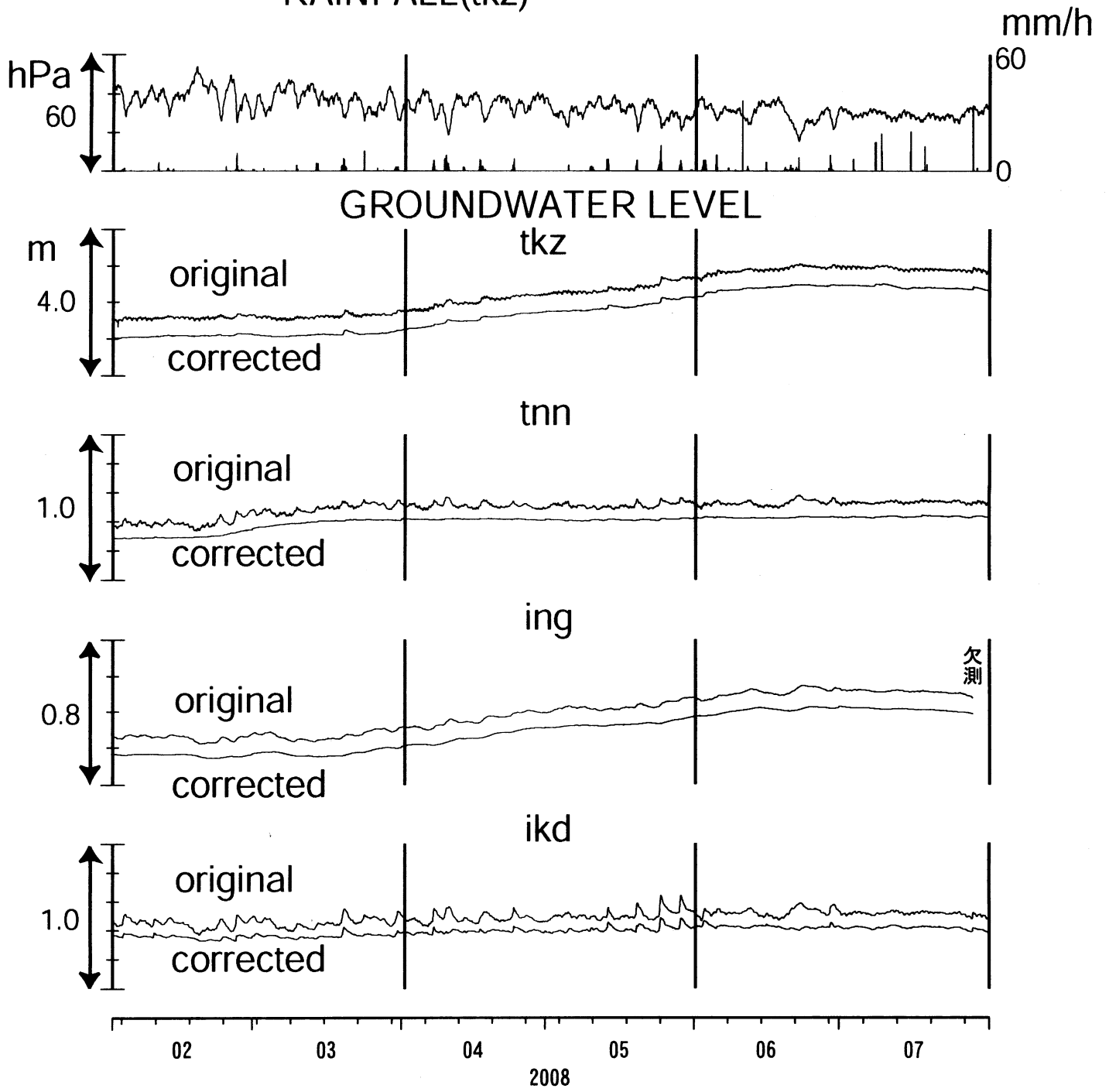


Fig.3

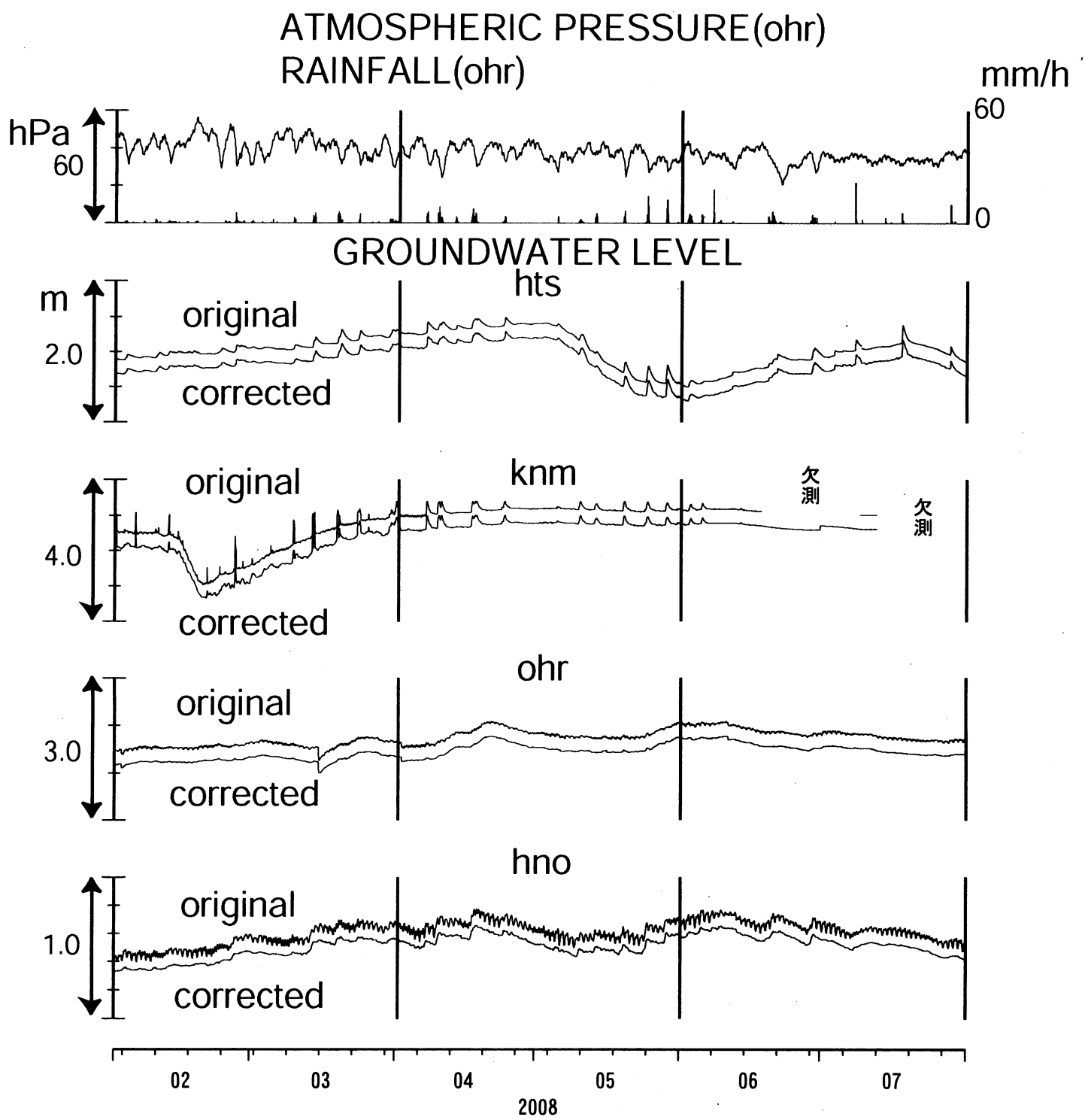


Fig.4

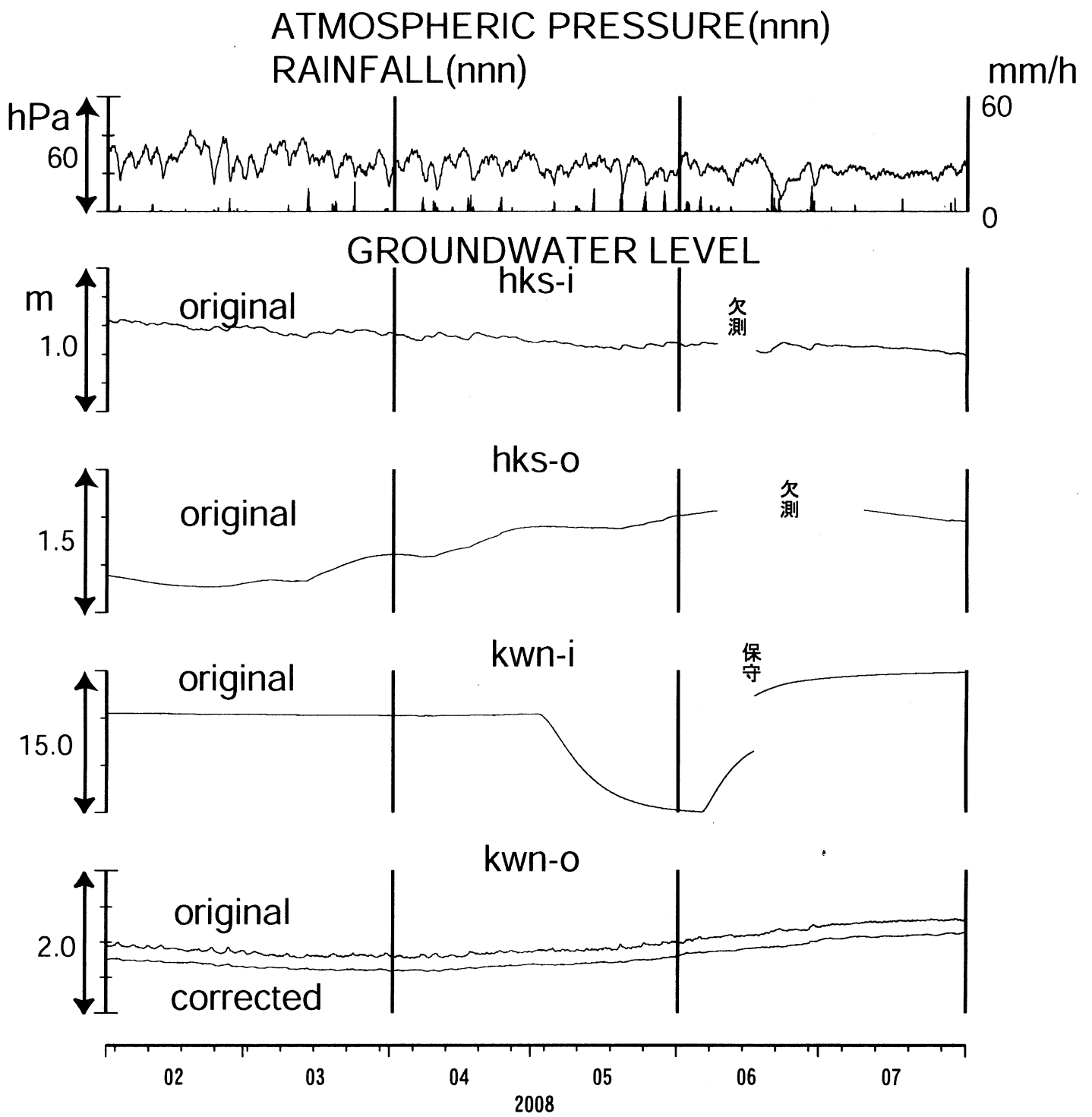


Fig.5

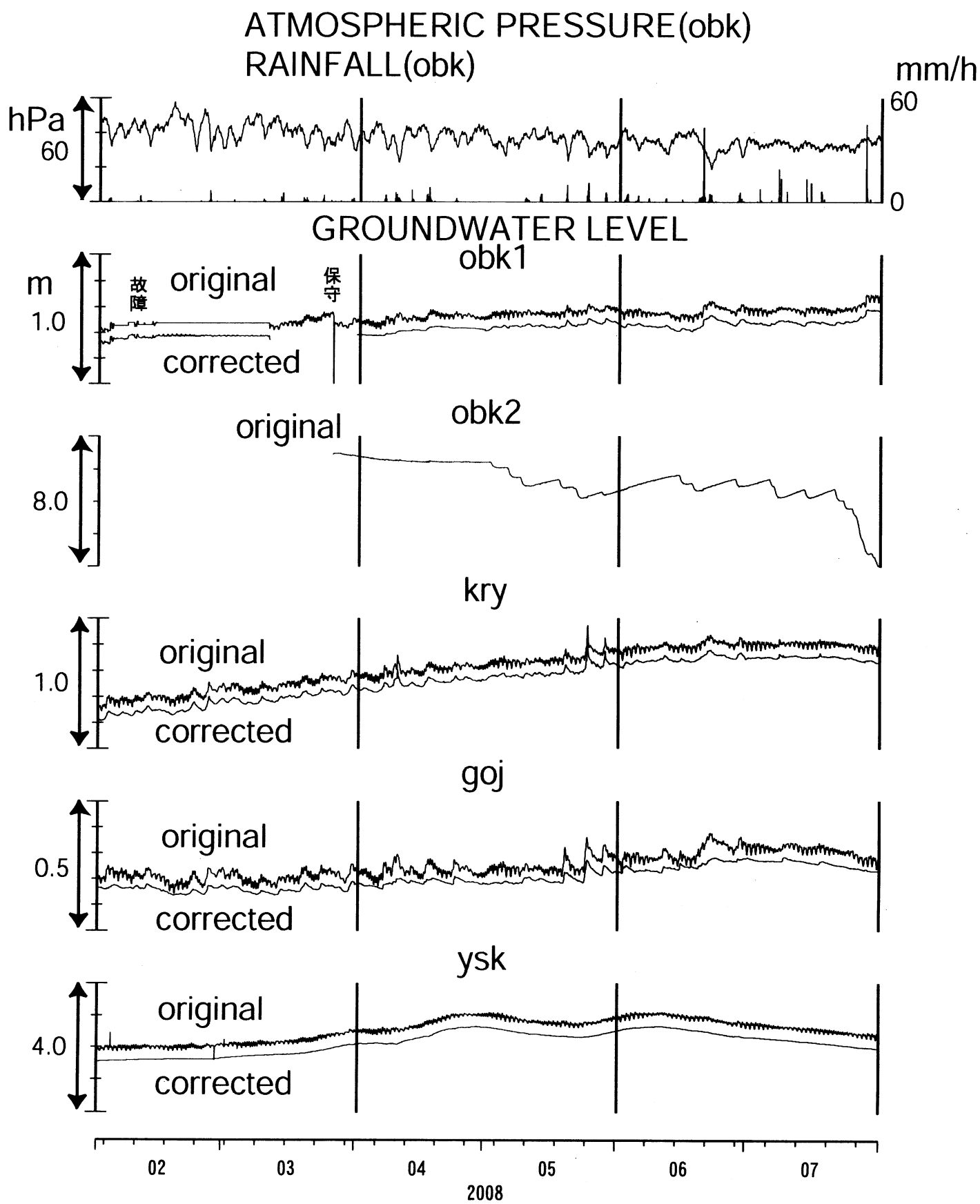


Fig.6

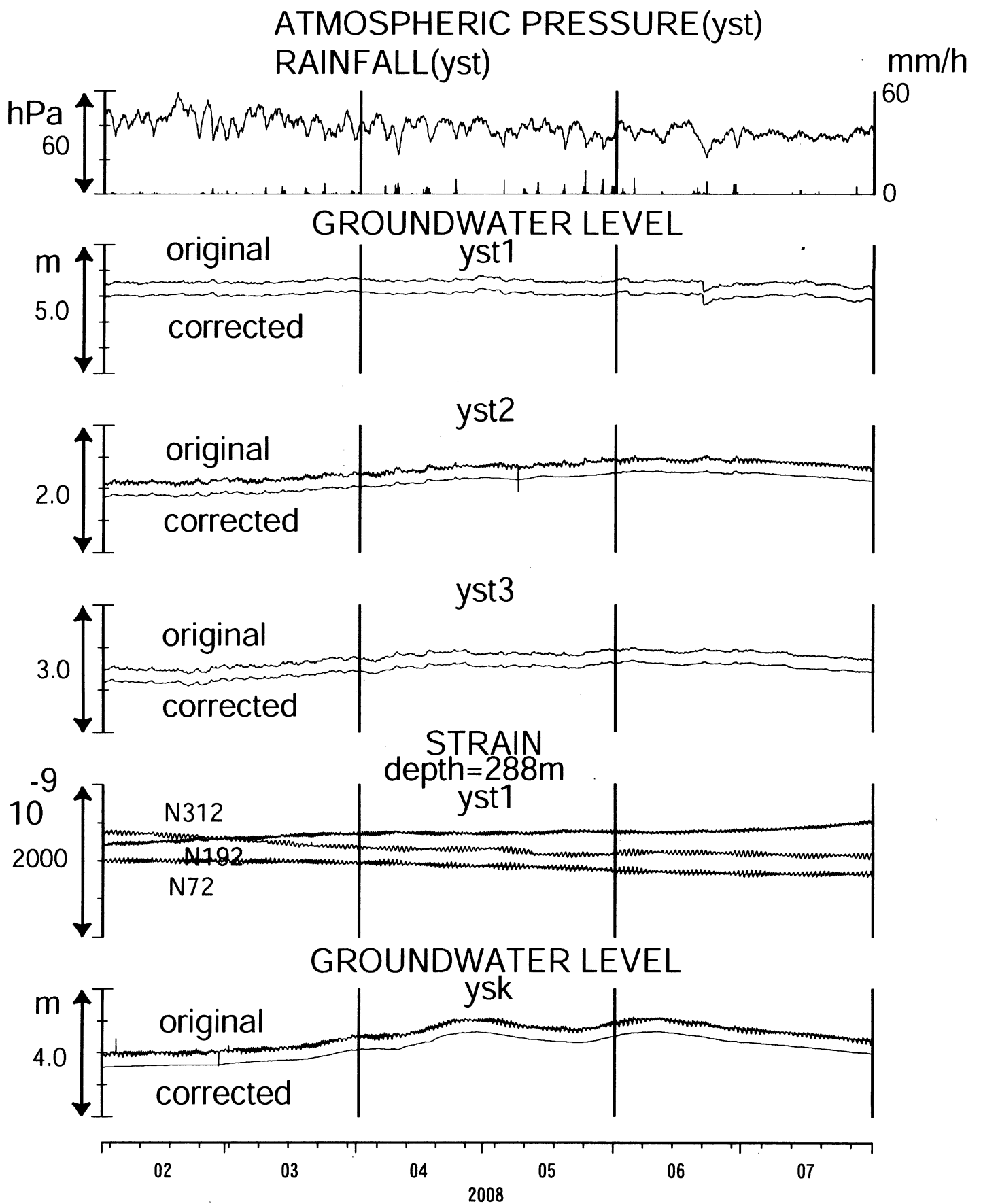


Fig.7

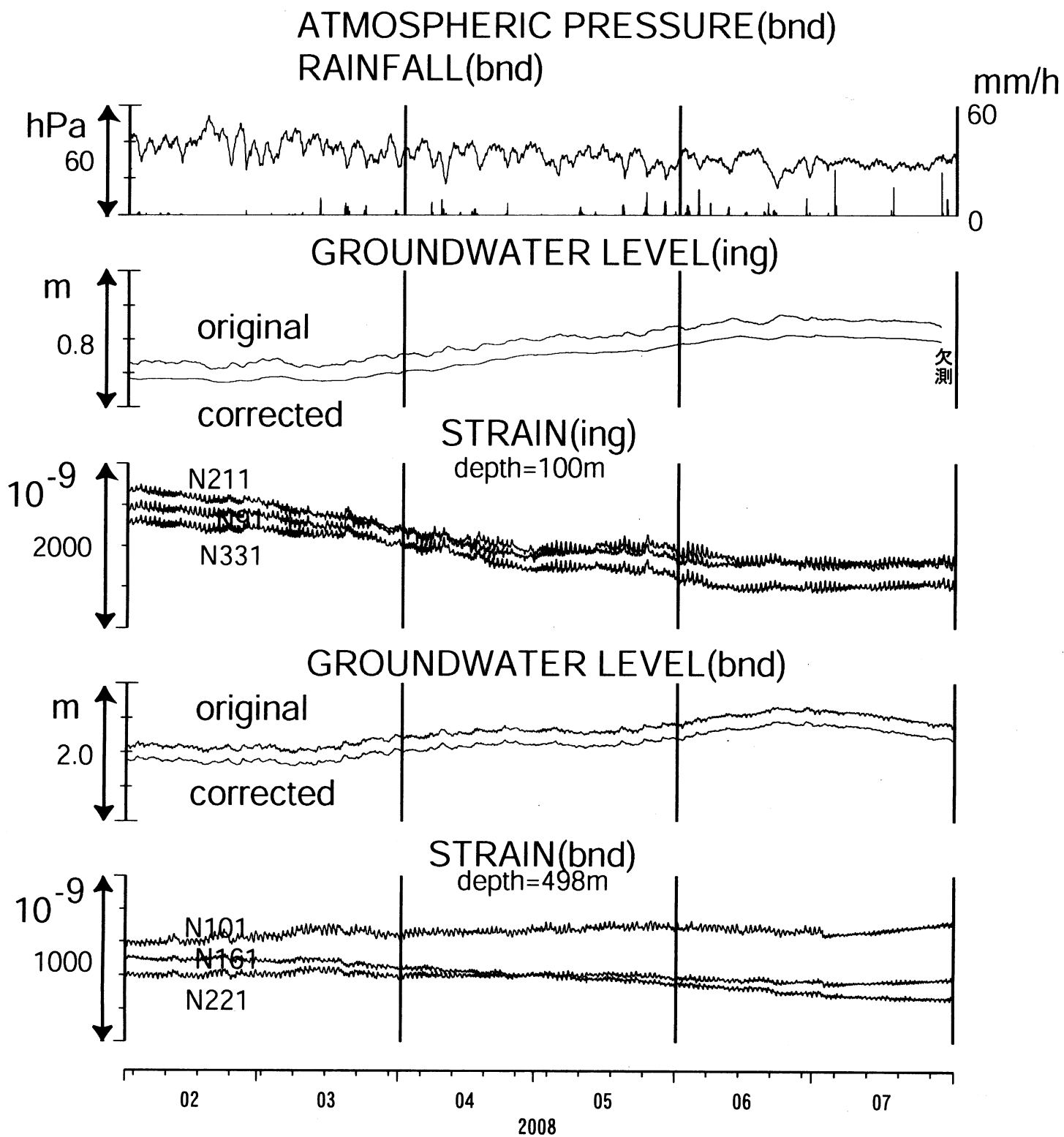


Fig.8

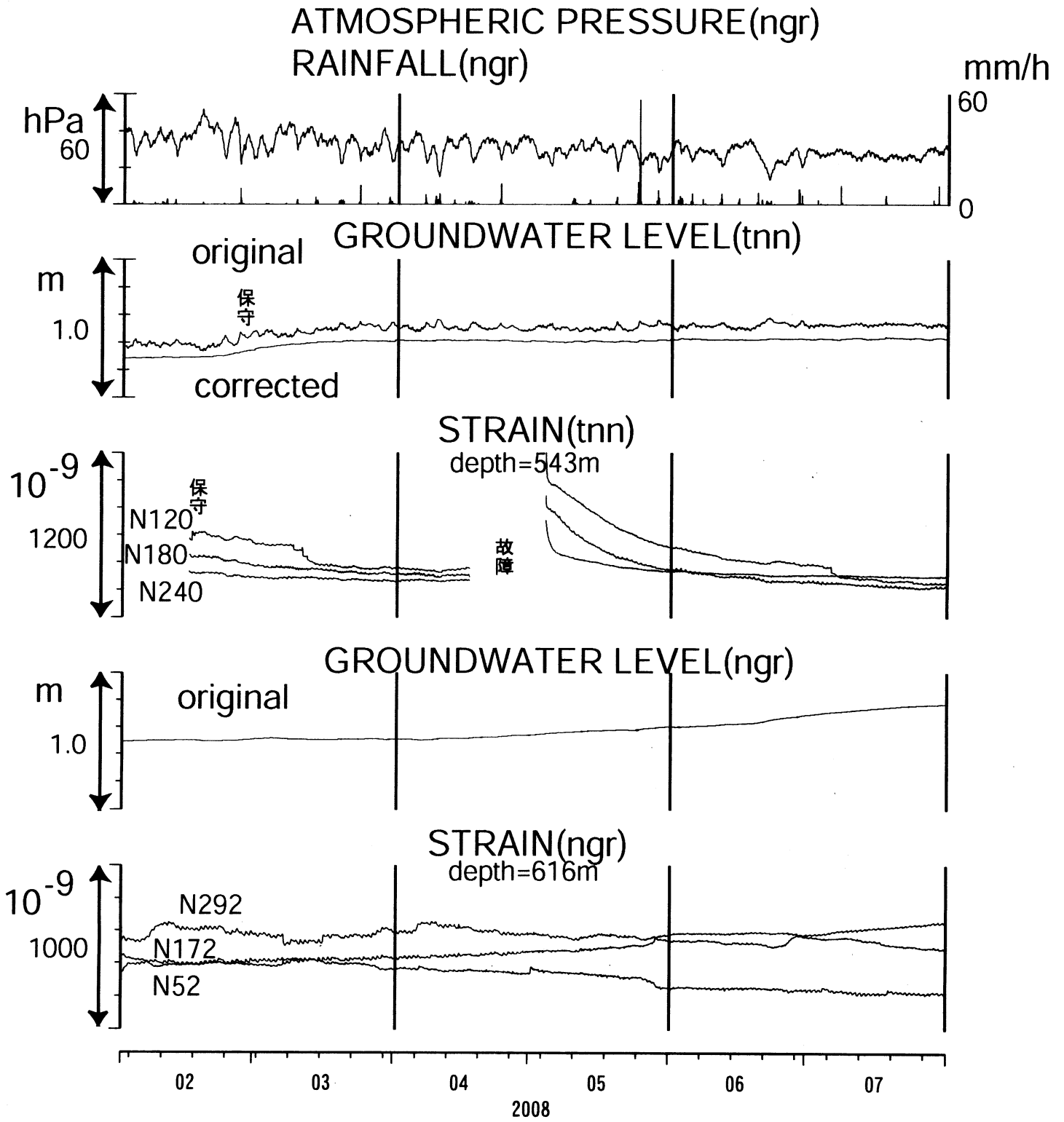


Fig.9

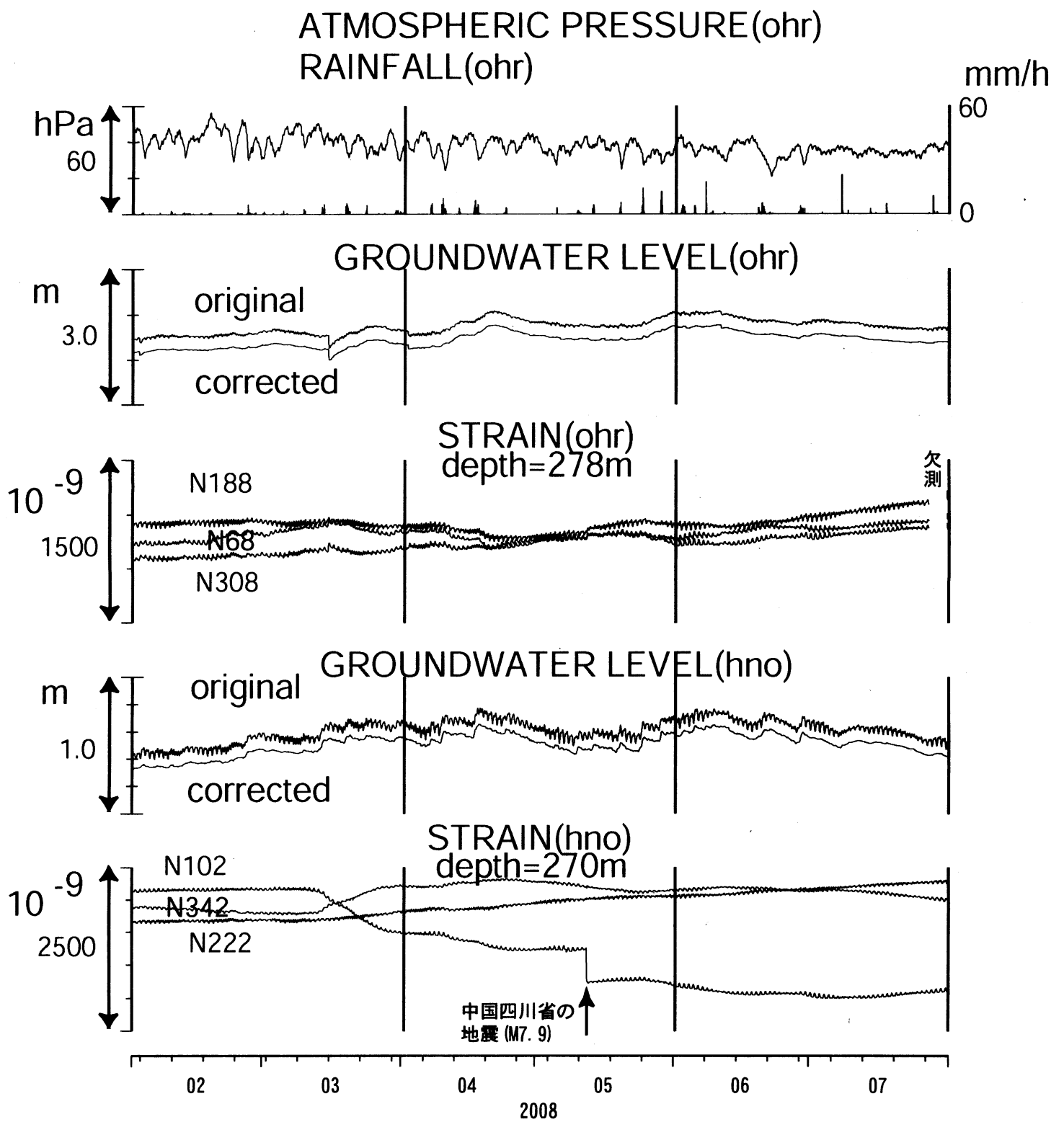


Fig.10

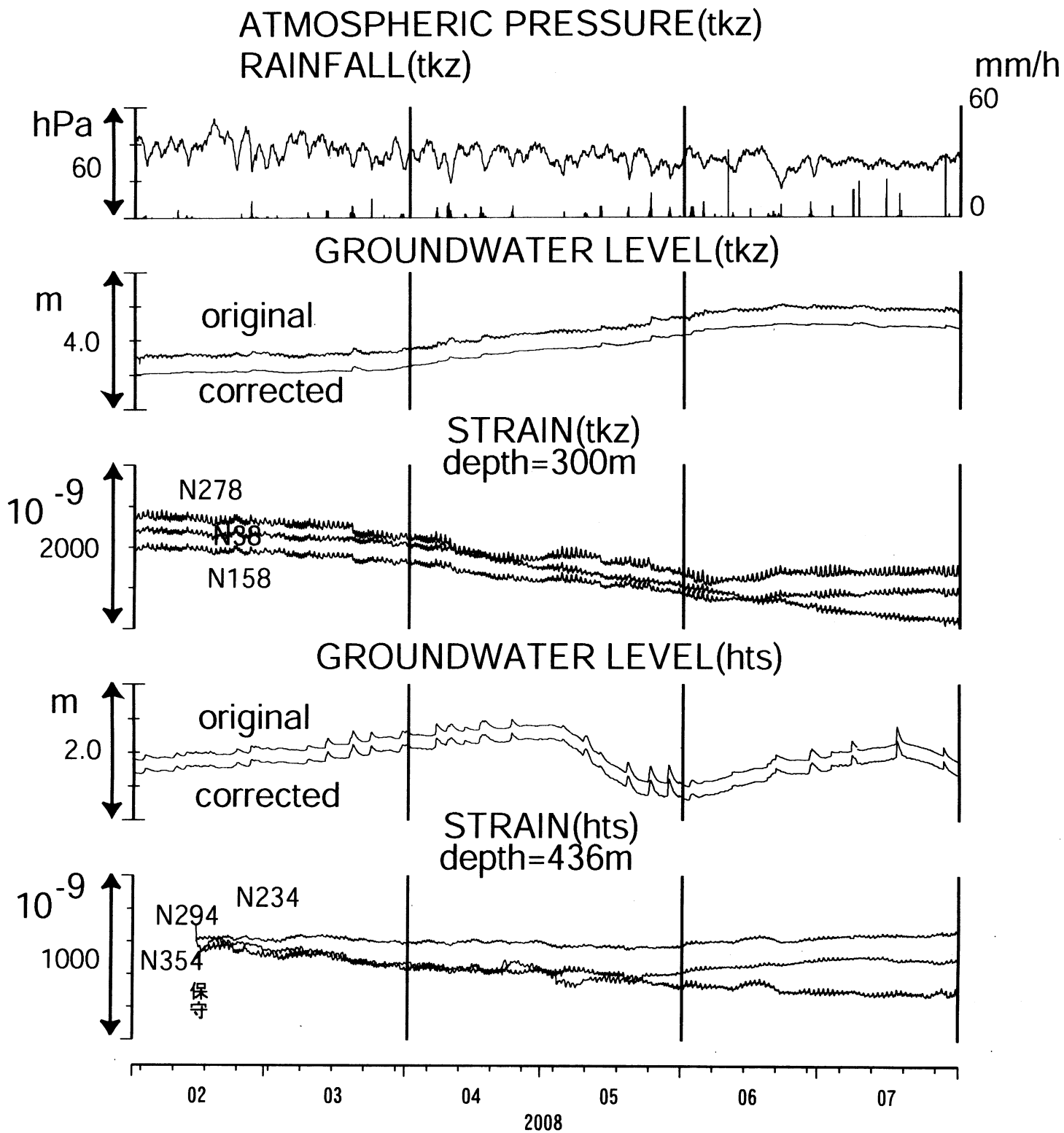


Fig.11